吉井田小 校章
昭和 39 年制定

令和元年度　学校通信　№ 9［2019.8.27］

野　菊

笑顔が輝く学校
福島市立吉井田小学校
児童数　４６１名(8/22)
発行者　校長　遠藤嘉人

第２学期がスタートしました

８月２２日（木）４６１名の全校生とともに、令和元年度第２学期がスタートしました。
第２学期の始業式には、イエローハットの創業者である鍵山秀三郎氏の「続・凡事徹底」の本を参考に「不可能を可能にする」という話をしました。話の中で、車いすバスケットボールに打ち込む二十歳の青年の姿を子どもたちに見てもらいました。

～第２学期の始業式の話から～
この夏休みは、昨年と同じように暑い日が続いた夏休みでした。午前中にプールを行ったので、しっかりプールで泳いだ人も多いと思います。
こうして、今日元気に登校してきた皆さんの姿を見ると、それぞれがいい夏休みを過ごすことができたなと感じました。夏休みだからできたこと、夏休みにしかできないことなど、たくさんの体験をしたことと思います。

さて、東京オリンピックの開催まで１年を切りましたし、障害のある方々のスポーツの祭典パラリンピックの開催まで、ほぼ１年となりました。
皆さんは、パラリンピック競技の一つである車いすバスケットボールを知っていますか。ちょっと、この映像を見てください。（　略　）
動画の中に出てきた坂田選手は、中学高校とバスケットボールを続けていました。自分が、まさか障害を持つようになるとは全く思っていなかった坂田選手が、突然下半身が動かなくなり、車いすの生活になった時には、どんな思いだったんでしょう。健常者と同じように歩くことができない、バスケットボールがこれまで通りにできないというのは、たいへん辛い思いであったと思います。
でも、この動画の中で坂田選手が言っている言葉、「健常のバスケができないんだったら、車いすバスケをしよう。バスケはバスケで同じ。」の言葉に、坂田選手の心の強さを感じます。

校長先生が夏休みに読んだ本の中に、こんな言葉が書かれていました。
「不可能というのは、今できないことを言うのであって、
　永久に不可能と言うことではありません。
　自分の能力が足りなくてできないのであれば、
　自分の能力を磨いて高める。
　一人でできないのであれば、協力者を求める。
　そうすれば、現在不可能であっても、
　必ず可能になる。」

坂田選手は、はじめはバスケットボールをすることなど考えもしなかったでしょう。下半身が不自由なことを自分の欠点としてそのままで終わっていたら、不可能は不可能のままだったと思います。

人一倍懸命に練習したのでしょう。そして、同じ障害を持つ仲間同士が励まし合い、みんなで、不可能を可能にしていったのだと思います。

２学期は、学習発表会や陸上の大会等、いろいろな行事があります。また、勉強や読書にもふさわしい季節です。ぜひ、勉強も運動もすべてに渡って充実した学校生活を送ってほしいと思います。

そのために大事なことは、今できないからといって諦めてしまうことなく、自分の力を磨いて、不可能を可能にしていくことです。

ぜひ、２学期は、不可能を可能にしていく学期にしてほしいと思います。